（様式２）

校　種	小　・　㊥ どちらかに○	学校番号	１４	学校名	宇都宮市立国本中学校

令和４年度　学習指導に関する取組

１　学習指導上の主な実態

（１）　国・県・市の学力調査などから（令和３年度「とちぎっ子学習状況調査」より）

【国語】

全ての領域で市・県の平均を下回った。特に差が大きかった領域は「書くこと」で、市の平均を１０．６ポイント下回っている。作文においては、無回答の生徒の割合が市の平均よりも１０％近くも多いことから、設問にある条件を理解できておらず、要点を掴めていないと考えられる。

【社会】

全ての領域で市・県の平均を下回った。特に差が大きかった領域は「世界各地の人々の生活と環境」と「世界の地域構成」で、それぞれ市の平均を１２．７ポイント、１０．３ポイント下回る結果となり、大きな課題である。各領域で「複数の資料を読み取り解答する問題」にも課題があることが分かる。

【数学】

全ての領域で市・県の平均を下回った。特に差が大きかった領域は「図形」で、市の平均を９．１ポイント下回る結果となり、課題である。「数と式」の領域では、特に方程式の問題に、「図形」の領域では、面積・体積・表面積を求める問題に大きな課題がある。また、「関数」では、基本的な用語の意味や関数の概念についての理解に課題があることが分かる。

【理科】

「生命」の領域では、６５．９ポイントと正答率が高く、市の平均を２．２ポイント上回った。その他の領域では市・県の平均を下回っているが、最も差の大きかった「地球」の領域でも市の平均からの差は３．８ポイントと大きくない。「エネルギー」の領域から、現象を論理的に施行し、言語化することに課題があることが分かる（国語科との関連）。また、「粒子」の領域からは、数学と同様、少数の掛け算、割り算など、基本的な計算能力に課題があることが分かる（数学科との関連）。

【英語】

全ての領域で市・県の平均を下回り、最も差が大きかった領域は「書くこと」で、市の平均を９．３ポイント下回った。中でも、疑問詞を用いて人物や場所をたずねる英文を書く問題では、無回答の生徒の割合が全体の３分の１程度と大きな課題となっている。「外国語表現の能力」と「言語や文化についての知識・理解」では、どちらも市の平均と比較して８ポイント以上下回っており、継続して知識・技能の定着を図っていくことが求められる。

（２）　国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから（令和３年度「宇都宮市学習内容定着度調査」）

・「勉強が好きですか。」の質問項目から、本校の肯定割合は３学年で 44.4(市平均 42.3)ポイントで良好であるが、１学年 37.1(市平均 47.3)ポイント、２学年 26.5(市平均 40.2)ポイントと、令和４年度の第２、３学年では、どちらも市平均を 10 ポイント以上下回る結果となり、大きな課題である。

・「学校の授業がどの程度分かりますか。」の質問項目では、３学年 88.0(市平均 82.4)ポイント、１学年 88.6(市平均 85.7)ポイント、２学年 76.1(市平均 81.3)ポイントと、３学年と１学年では市平均と前年度の肯定割合のいずれも上回ったが、２学年においてはいずれも下回る結果となった。特に、「分からないことが多い」「ほとんど分からない」の割合が２学年では 24.0 ポイントとなっており、各教科の授業改善が急務である。

・「ふだん、学校の授業以外に、１日どれくらい学習していますか。」の質問項目から、学習時間が市平均よりも長い生徒と、ほとんど学習していない生徒の二極化が見られる。平日の学習時間が３０分以下の生徒が１学年では 17.5(市平均 9.9)ポイント、２学年では 17.2(市平均 12.3)ポイントであった。

土日に関しては、２学年では市の平均は下回るものの、そこまで大きな差となっていない。しかし、１学年の「ほとんどしない」生徒の割合は、最も多い 17.4(市平均 6.9)ポイントとなっている。また、家庭学習に関する項目の中として、「授業で習ったことを、その日のうちに復習している。」生徒の割合は、１学年で 36.4(市平均 49.5)ポイント、２学年で 36.8(市平均 42.4)ポイントとどちらも市平均を下回り、半数以上の生徒が「家庭学習で復習をする習慣」が身に付いていないことが明らかである。

（３） 授業等への取組状況から

・授業の始まりには席につく、先生や友だちの話を最後まできちんと聞く、授業に必要な学習用具を忘れずに持ってくることについてはおおむね良好な状況である。
・「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。」生徒の割合はどちらも市の平均と比較して低く、特に２学年では６割を切っていることから、教科を超えて取り組むべき重点課題である。

２　今年度の重点目標

「宇都宮モデルに基づく授業改善を通し、学びに向かう力の育成と学力の向上を目指す」

３　今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★，「令和４年度指導の重点」に関する取組は文頭に□，授業における取組のうち重点は文頭に○）

（１） 基礎・基本の確実な定着

★小中一貫教育カリキュラムの推進。（８月、１２月の研修を踏まえて通年）
★学習向上プログラムの実施（定期テスト前・夏休み中の学習相談の実施）
★家庭学習ノート・スタンダードダイアリーの継続指導及び指導の工夫（通年）
★○発表の仕方やノートの取り方など言語環境の整備、基本的な学習態度・学習技能の定着、「学習の約束」の徹底（通年）
・「家庭学習」指導を視野に入れた授業づくりと、基礎的・基本的な知識の定着（通年）

（２） 学習指導の工夫・改善（生徒を認め生かす授業の工夫）

□宇都宮モデルに基づく授業改善の推進（通年）
□「家庭学習がんばりの記録」の活用（通年）
□校内授業研究会の活性化（通年）
★○「ノー部活デー」での家庭学習の推進（ありんこ学習室の利用や学習相談等）
★各種学習調査の結果の分析と公表
・教科部会の定期的な実施と活性化（各調査の分析及び分析をもとにした指導の工夫・改善）
・生徒一人一人の能力・適性等に応じた指導の充実（通年）
★効果的な発問、指示、助言、板書、ノート指導法の工夫と改善（通年）
・指導と評価の一体化の推進（通年）

（３）読書活動の充実

★全校読書の実施（毎日）
・ブックトークの実施（通年）
○図書館だよりの発行（毎月）

（４）家庭・地域との連携・協力

★家庭・地域から協力を得た学校行事の実施
★学習及びキャリア指導から家庭学習の習慣化を図るための説明（保護者会、各種通信等）
★保護者・地域と連携した土曜授業の実施（全１回実施）
①市一斉土曜授業